

指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書第29集

県営畑地帯農道網整備事業(魚見地区)に伴う埋蔵文化財確認調査報告書

上 吹 越 遺 跡  
下 吹 越 遺 跡

1998年9月

指宿市教育委員会





## 序 文

この報告書は、指宿市教育委員会が平成 8 年度に実施した上吹越遺跡・下吹越遺跡の埋蔵文化財確認調査の成果をまとめたものです。

上吹越遺跡は、昭和 44 年に遺跡内の宅地内から古墳時代の土器を採集したことがきっかけとなり、遺跡の所在が確認されました。

また、下吹越遺跡は平成 6 年度に鹿児島県立埋蔵文化財センターが実施しました、サンオーシャン・リゾート開発に伴う分布調査で確認された遺跡です。両遺跡とも、指宿市の歴史を解く鍵が眠っていると思われます。

今回の埋蔵文化財確認調査では、農道の地下に先人達の長い生活の痕跡を包含している地層が、堆積していることが確認されました。

発刊にあたり、ご協力頂きました鹿児島耕地事務所、鹿児島県教育庁文化課、調査地区周辺の方々など、この確認調査に対して多くのご理解とご協力をいただきました関係各位に対しまして、厚く御礼申し上げます。

平成 10 年 9 月

指宿市教育委員会

教育長 山下隼雄

## 例　　言

1. 本報告書は、県営畑地帯農道網（魚見地区）整備事業に伴い、指宿市教育委員会が実施した上吹越遺跡・下吹越遺跡の確認調査報告書である。
2. 本確認調査は、鹿児島耕地事務所と業務委託契約を締結し、指宿市教育委員会が主体となり実施した。
3. 本確認調査に伴う調査・整理作業の経費 467 千円は、それぞれ国が 210 千円、県が 148 千円、市が 109 千円を負担した。
4. 本確認調査は、指宿市教育委員会の下山 覚・鎌田 洋昭が担当した。
5. 本書に用いたレベルはすべて絶対高である。
6. 図面・写真などについては、指宿市教育委員会が保管している。

## 本文目次

第1章 確認調査の経緯と組織	1
第1節 調査にいたる経緯	1
第2節 調査の組織	1
第3節 確認調査の経緯	2
第2章 遺跡の位置と環境	4
第3章 確認調査の概要	6
第1節 調査の概要	6
第2節 上吹越遺跡の調査	6
第3節 下吹越遺跡の調査	8
第4章 確認調査の結果	11

## 挿図目次

第1図 遺跡位置図 (1/25,000)	3
第2図 確認調査実施地点位置図 (1/20,000)	5
第3図 上吹越遺跡トレンチ位置図 (1/2,000)	7
第4図 下吹越遺跡トレンチ位置図 (1/2,000)	9

## 写 真 図 版 目 次

第 1 図版	上吹越遺跡	1 T から 3 T を望む――――――	13
第 2 図版	上吹越遺跡	3 T から 西方向を望む――――――	13
第 3 図版	下吹越遺跡	県道から 6 T (北方向) を望む――――	14
第 4 図版	下吹越遺跡	8 T 周辺写真――――――――――	14
第 5 図版	下吹越遺跡	3 T から 2 T 周辺を望む――――――	15
第 6 図版	下吹越遺跡	3 T から 魚見岳を望む――――――	15
第 7 図版	下吹越遺跡	4 T 確認調査作業風景写真――――	16
第 8 図版	下吹越遺跡	県道から 10・11 T を望む――――	16
第 9 図版	下吹越遺跡	14 T から 12・13 T を望む――――	17
第 10 図版	下吹越遺跡	12 T から 西方向を望む――――――	17

## 第1章 確認調査の経過と組織

### 第1節 確認調査に至るまでの経緯

平成6年度に、指宿市産業振興部耕地課より、耕地事業全体の開発計画とそれに伴う開発計画地の遺跡の照会が行われ、指宿市教育委員会とその内容について協議を行った。

その結果、県営畑地帯農道網整備事業（魚見地区）については、上吹越遺跡と下吹越遺跡地内で整備事業が行われることが提示された。農道整備事業内容は、すでに畑地帯が整備完了している地域内の砂利敷農道を舗装化するものであった。

市教育委員会は県営畑地帯農道網整備事業に伴い、計画地内の整備工事の掘削深度内に、遺物包含層が有無するのか確認する必要があり、他の開発や整備事業にともなう埋蔵文化財発掘調査年次計画と照らし合わせ、平成9年度に上吹越遺跡と下吹越遺跡の確認調査を行う計画案を提示した。

平成9年度に、鹿児島県耕地事務所と指宿市による「上吹越遺跡・下吹越遺跡の埋蔵文化財確認調査」の委託契約を平成9年5月15日に締結し、指宿市教育委員会が埋蔵文化財確認調査の主体者となり、計画どおり実施した。

### 第2節 確認調査の組織

確認調査及び整理作業は以下の組織で行われた。

確認調査主査者	鹿児島県指宿市教育委員会	山 下 雄
確認調査責任者	指宿市教育委員会教育長	室 屋 昭
確認調査事務担当	指宿市教育委員会社会教育課長	尾 辻 隆
	指宿市教育委員会社会教育課嘱託社会教育係長	原 口 洋
	指宿市教育委員会社会教育課嘱託社会教育主事	宮 原 智
	指宿市教育委員会社会教育課主査	下 玉 利
	指宿市教育委員会社会教育課文化係長	小 村 重
	指宿市教育委員会社会教育課文化係主査	下 山 覚
確認調査担当者	指宿市教育委員会社会教育課文化係主事	中 摩 浩太郎
	指宿市教育委員会社会教育課文化係主事	渡 部 敏也
	指宿市教育委員会社会教育課文化係主事	鎌 田 洋
	指宿市教育委員会社会教育課文化係主事	植 村 昭子

確認調査作業員 竹下 カツエ・浜崎 イチ子・新小田 千恵子

整理作業員 清 秀子・前田 恵子・竹下 珠代

### 第3節 確認調査の経過

平成9年5月15日に、鹿児島耕地事務所と指宿市「上吹越遺跡・下吹越遺跡埋蔵文化財確認調査」の委託契約を締結し、平成9年6月4日から同年6月24日までの期間で、上吹越遺跡と下吹越遺跡の埋蔵文化財確認調査を実施した。

畑地帯農道整備事業（魚見地区）に伴う砂利敷き農道の舗装化が計画されている地区内において、上吹越遺跡・下吹越遺跡の周知の遺跡の範囲内では、すでに畑地帯として畑地が区画整備されており、その区画整備の段階で地形の起伏の平地化を目的とした他地域からの土砂の運搬や土砂の掘削・搬出が行われていたと考えられた。

現在においては、上吹越遺跡や下吹越遺跡内の畑地内で、土器片や陶器片などは表面採集できる地域であり、場所によっては遺物包含層が良好な状態で地下に保存されていることも予想されたが、両遺跡地内における本格的な埋蔵文化財確認調査は今回が初めてであり、地層の堆積状況などについてはまったく基礎情報が皆無であった。

そのため、舗装化計画がある農道内にトレーンチ（試掘坑）を設定し、舗装工事の段階で掘削される深度内に遺物包含層が残存しているか否かの確認調査を行うことにした。

埋蔵文化財確認調査では、舗装化計画農道の延長距離が長いため50m間隔で、1m四方のトレーンチを設定した。

また、農道は農業専用作業道路として共用されているため、作業に支障のないように時間の短縮化を図るため、重機をもちいて砂利やバラス、填圧して固く引き締まっている土などを除去しながら、色調の変化や火山灰など地層の変化を確認した段階で、作業員による手掘りを行い、遺物包含層の確認をした。

上吹越遺跡・下吹越遺跡の埋蔵文化財確認調査が終了し、各トレーンチの土層堆積状況を撮影した写真や図面、表面採集した土器片などの資料の洗浄・ナンバーリングなどの室内作業に移った。

平成9年9月に、上吹越遺跡と下吹越遺跡の埋蔵文化財確認調査の成果による遺物包含層までの深度と整備工事の対処方法などについて、指宿市耕地課・鹿児島耕地事務所に報告を行った。

第1図 遺跡位置図 (1/25,000)



## 第2章 遺跡の位置と環境

指宿市は、九州本土の薩摩半島最南端に位置し、地形的には山地・台地・平野・湖沼と大きく4つに区分される。中でも九州最大のカルデラ湖である池田湖は、約5,500年前に活動し、その噴出物は指宿地方の大きな地形形成要因となっている。その活動は有史以来、「日本三代実録」などに記載があり、降下した噴出物は非常に固く固結しており、広くこの地方を覆っている。

上吹越遺跡・下吹越遺跡の東南側には、錦江湾に突き出た魚見岳(214.8m)がある。この魚見岳は指宿市内の地形分類的には古期火山に分類され、池田湖の東側に展開している鬼門平断層崖と同様に阿多カルデラの外壁と考えられている。(松本 1943)

両遺跡は古期火山による成層と沖積平野の境界付近の台地上に位置している。(第1図参照)

上吹越遺跡は、昭和44年に宅地内で古墳時代の土器片が採集されたことがきっかけとなり、埋蔵文化財の遺跡として周知化された。

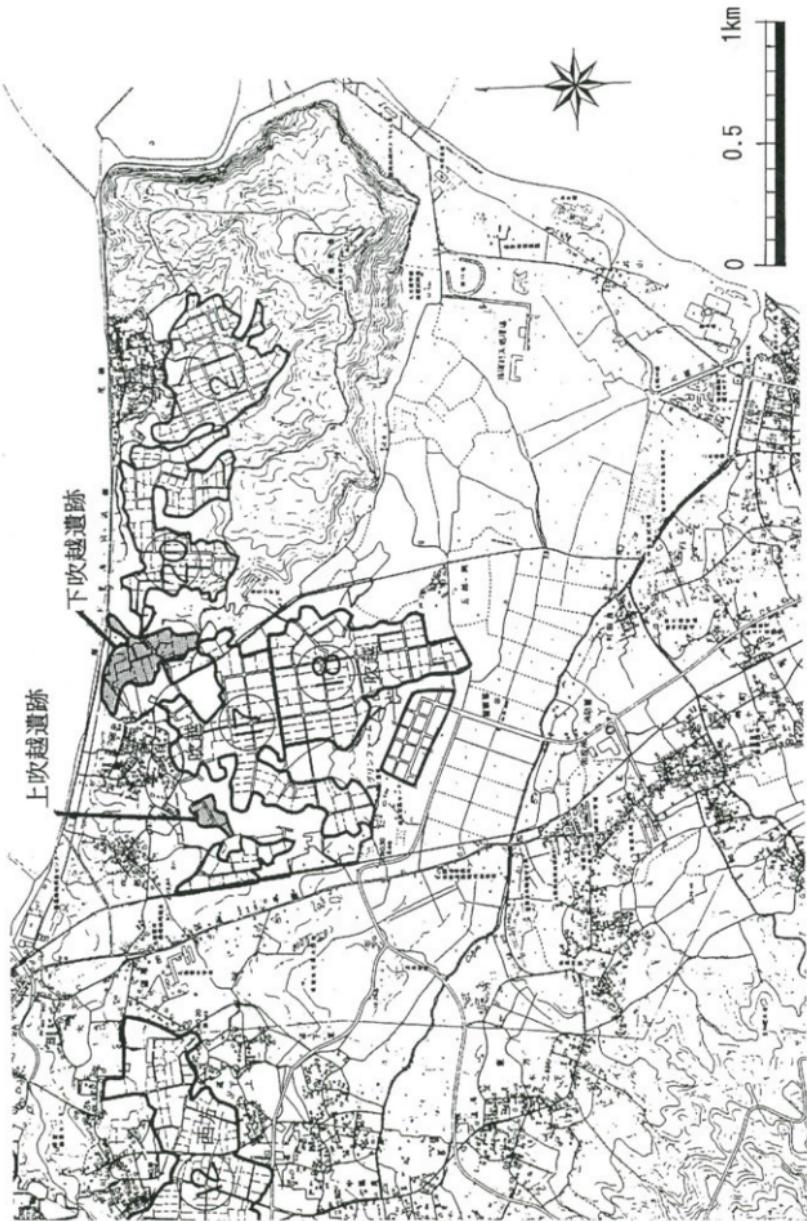
下吹越遺跡は、平成6年度に鹿児島県立埋蔵文化財センターがサンオーシャンリゾート計画に伴い、指宿市内の計画地域の畑地内を分布調査している際に、土器や陶磁器片などが採集されて確認された比較的新しい埋蔵文化財包蔵地である。

現在、両遺跡とも畑地帯整備事業によって畠地が区画整備されており、区画整理以前の地形の起伏などについては不明である。

上吹越遺跡の西側には、縄文時代の線刻画土器が採集された大園原遺跡や、弥生時代の集落が確認された宮の前遺跡、柴立遺跡、中川遺跡などが点在している。

下吹越遺跡の東南側には指宿市立魚見小学校の上の台地にある魚見小学校上遺跡があり、この遺跡地内の畠地からは、古墳時代の土器片やたき石などの古代の生活の道具が採集されている。

このように、上吹越遺跡・下吹越遺跡の周辺の遺跡の内容から、縄文時代後期・弥生時代・古墳時代と長い期間の先人達の生活の痕跡が確認されている。また、この周辺の遺跡では中世(鎌倉・室町時代)の生活の道具を包含している中世黒色帯が発達していることから、中世の頃の生活の痕跡も確認できることが予想される地域である。



第2図 確認調査実施地点位置図 (1/20,000)

## 第3章 確認調査の概要

### 第1節 確認調査の概要

魚見地区周辺における県営畑地帯農道網整備事業において、現在共用されている砂利敷きの農道を舗装化する計画に伴い、計画農道内で確認調査を実施した。（第2図）

実施期間は、平成9年6月4日から6月24日までである。

農道整備が行われる魚見地区内には、上吹越遺跡と下吹越遺跡が周知の遺跡として知られており、両遺跡内における農道内にトレンチ（試掘坑）を設定し、遺物包含層までの深さを確認した。

遺跡内の砂利敷農道内に、1m四方の大きさを基準としたトレンチを設定した。

トレンチ内を掘り下げていく段階では、日常的に共用されていることを考慮して、重機などを用いることで調査を行っている時間を短縮することに努めた。

また、トレンチの設定地を決定する際には、農道の路肩部分に設定し農作業車の往来に支障が無いようにした。

基本的には、重機で表土や無遺物層を下げていき、遺物包含層の上部を確認した段階でそのトレンチの掘り下げを止め、地層の堆積状況の記録、写真撮影などを行い埋め戻しを行った。遺物包含層の掘り下げを行わないことで、遺跡の保存にも努めた。

以下、上吹越遺跡・下吹越遺跡の順で成果を述べる。

### 第2節 上吹越遺跡の確認調査

上吹越遺跡内において農道整備が行われる農道は、約100mの直線農道一本であった。

その農道内の路肩部分に、約30mおきにトレンチを三ヶ所設定した。（第3図）

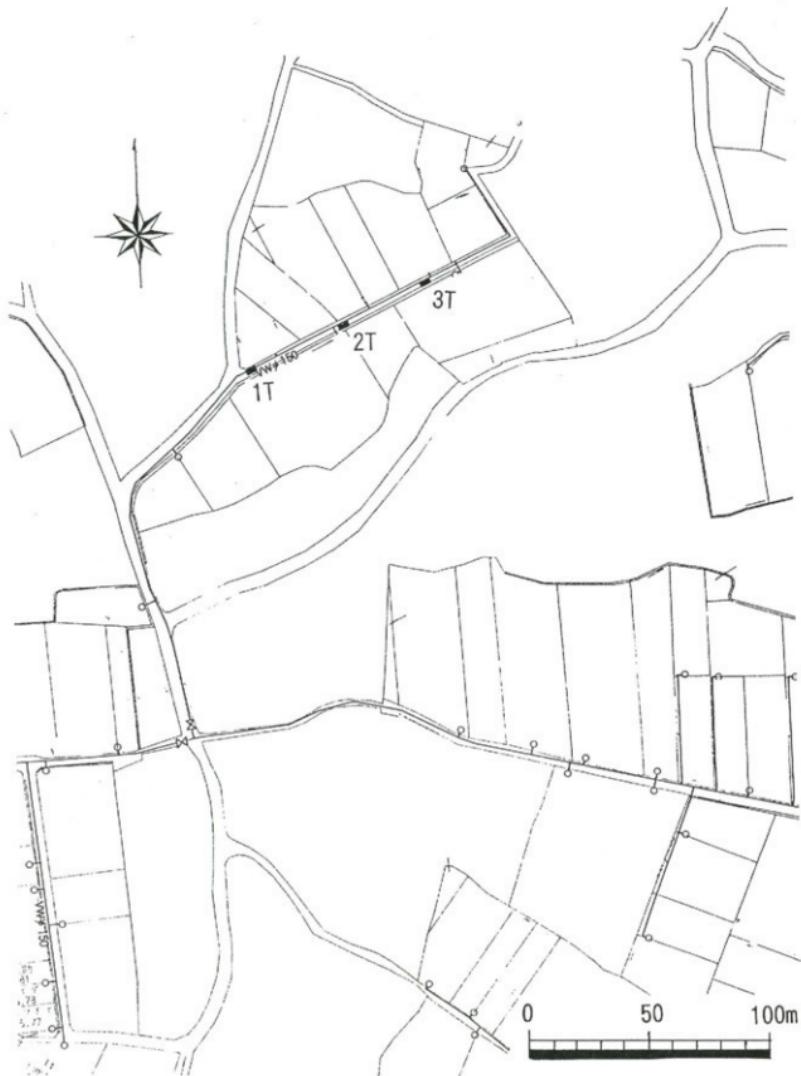
西側から東側へと1・2・3トレンチとし、確認調査を実施した。

1～3トレンチを設定した農道の南側には、三面側溝水路が隣接していた為、河川氾濫による砂利などが堆積していることが予想された。

確認調査の結果、1～3トレンチとも農道上面の砂利敷き部分の直下には黒色土が確認できた。

黒色土を手ぼりによる掘り下げを一部行ったが、遺物は確認できなかった。また、黒色土を重機で掘り下げ、黒色土の下層に遺物包含層が残存しているかを確認した。

しかし、現農道砂利敷上面から地下へ1.5～2m内に遺物包含層は確認できず、舗装工事の掘削深度内では支障がないと考えられたため、埋め戻しを行い確認調査を終了した。



第3図 上吹越遺跡トレンチ位置図 (1/2,000)

### 第3節 下吹越遺跡の確認調査

下吹越遺跡内の舗装化が計画されている農道は、総延長約 650 mを測る。計画農道は、指宿市立魚見小学校の北側にある下吹越集落を東西に貫く「大園原下吹越線」が県道と合流する手前の畠地で、「大園原下吹越線」の南北に整備されている部分である。

計画農道内にトレンチを 14ヶ所設定し、確認調査を実施した。（第4図）

「大園原下吹越線」の北側農道に 1～8 トレンチを、南側農道には 9～11 トレンチと、12～14 トレンチと呼称した。各トレンチの確認調査の成果は下記のとおりである。

3・4・7 トレンチにおいては、遺物包含層と考えられる紫コラのバミスを含む黒色土層が農道上面から浅いところより確認された。3・4 トレンチでは約 35cm、7 トレンチでは約 20cm の深度である。

6 トレンチでは、約 110cm の深さにおいて古墳時代の土器などの遺物を包含する地層を確認した。

8・9 トレンチでは、先述した 3・4・7 トレンチで確認した、遺物包含層と考えられるバミスを含む黒色土層が同様に確認された。ただし、3・4・7 トレンチと比べ 50cm 以上の深さで確認されており、地形の起伏もしくは畠地帯の整備段階の掘削による平地化が伺えた。

9・10・12・14 トレンチにおいては、中世（鎌倉・室町時代）に使われた陶磁器類などの遺物を包含している黒色層が確認できた。

13 トレンチでは、開聞岳の火山性噴出物の堆積層である「紫コラ」が、現地表面から約 25～50cm の深さで確認された。

「紫コラ」は非常に固結する特徴があり、指宿市内の橋牟礼川遺跡、向吉遺跡、敷領遺跡、中島ノ下遺跡などでは、「紫コラ」と呼称される開聞岳の火山性噴出物の直下から、火山礫が降下・堆積する直前の生活面が良好な状態で確認され、畑・水田・古道・建造物・河川などが検出された事例が多数ある。このことから、非常に固結している「紫コラ」の直下には、先に挙げたような開聞岳の火山礫や火山灰で埋没している平安時代の生活面が良好な状態で保存されていることが予想されるので十分注意をすることが望まれる。

遺物包含層は確認できなかったのは 1・2・5 トレンチにおいてのみである。

1～14 トレンチの確認調査の結果などについては、第 1 表のとおりである。



第4図 下吹越遺跡トレンチ位置図 (1/2,000)

井戸No	規 模	包含層の有無	包含層までの深さ cm	その他
1	1×2	なし	—	
2	0.8×2	なし	—	
3	0.8×2	あり	GL-35	平安時代ミス混黒色土層
4	1×2	あり	GL-35	平安時代ミス混黒色土層
5	0.8×2	なし	—	
6	1×2	あり	GL-110	古都時代遺物包含層
7	1×2	あり	GL-20	平安時代ミス混黒色土層
8	0.8×2	あり	GL-63	平安時代ミス混黒色土層
9	1×2	あり	GL-108	平安時代ミス混黒色土層
10	1×2	あり	GL-76	中世黒色帯
11	0.75×2	あり	GL-25~152	中世黒色帯
12	1×2	あり	GL-42	中世黒色帯
13	1×2	あり	GL-25~50	紫コラが確認
14	1×2	あり	GL-15~72	中世黒色帯

第1表 下吹き窓跡の調査結果一覧表

## 第4章 確認調査の成果

平成9年6月に実施された県営畠地帯農道整備事業の砂利敷き農道の舗装化事業に伴う、上吹越遺跡・下吹越遺跡の埋蔵文化財確認調査の結果、以下の様な成果があげられた。

### －上吹越遺跡－

上吹越遺跡内で農道舗装化が計画されている部分には3ヶ所のトレンチを設定し、確認調査を行った。1～3トレンチとも現地表面から1.5～2m以内に遺物包含層は確認できなかった。

また、南側に三面側溝の用水路が設けられており、三面側溝化以前の河川氾濫による土砂などの堆積が確認された。

北側の畠地内では土器片などが表面採集されていることから、他の部分に良好な状態で遺物包含層が残存している可能性があるが、今回確認調査した範囲内では、遺物包含層は確認できなかった。

よって、舗装化工事に伴う掘削では遺物包含層の破壊はないと判断できよう。

### －下吹越遺跡－

下吹越遺跡では、県道を挟んで東西に農道が3支線あり、その各支線農道にトレンチを設定し、埋蔵文化財確認調査を実施した。

調査の結果内容は第1表にまとめてあるとおりで、1・2・5トレンチ以外は全て遺物包含層が確認された。

特に、3・4・7トレンチでは現農道地表面からわずか20～35cmと浅いところから、今から約1,200年前の平安時代の遺物包含層が確認できた。

6トレンチでは古墳時代の遺物包含層が確認できた。

3・4・6・7～14トレンチでは中世（鎌倉・室町時代）と平安時代の遺物包含層が確認できた。

よって、下吹越遺跡内の農道舗装計画路線の地下には、中世・平安時代・古墳時代の遺物包含層が確認された。

また、西暦874年3月24日に開聞岳の火山噴火によって噴出、降下、堆積した火山灰（通称：紫コラ）の堆積が確認されたことで、開聞岳が噴火する直前の生活の地面が真空パックの状態で地下に保存されている可能性が予想される。

なお、紫コラによって埋没している平安時代の生活の痕跡が確認されている遺跡は、国指定史跡橋牛乳川遺跡、小田遺跡、南迫田遺跡、迫田遺跡、敷領遺跡などがある。これらの遺跡からは、西暦874年3月24日の開聞岳の火山灰で埋没した平安時代の掘建柱住居、畠、水田、河川、古道などであり、その当時のムラの様子を細かく再現できる情報を導き出している。

将来的に下吹越遺跡の周辺で埋蔵文化財発掘調査が行われれば、上記した遺跡と同様で、西方地区周辺の平安時代の古代の歴史が紐解ける可能性がある。



# 写 真 図 版





第1図版 上吹越遺跡 1Tから3Tを望む



第2図版 上吹越遺跡 3Tから西方向を望む



第3図版 下吹越遺跡 県道から6T(北方向)を望む



第4図版 下吹越遺跡 8T周辺写真



第5図版 下吹越遺跡 3Tから2T周辺を望む



第6図版 下吹越遺跡 3Tから魚見岳を望む



第7図版 下吹越遺跡 4T確認調査作業風景写真



第8図版 下吹越遺跡 県道から10・11Tを望む



第9図版 下吹越遺跡 14Tから12・13Tを望む



第10図版 下吹越遺跡 12Tから西方向を望む

## 報 告 書 抄 錄

ふりがな	かみひごしいせき・しもひごしいせき						
書名	上吹越遺跡・下吹越遺跡						
副書名	県営畑地帯農道網整備事業(魚見地区)に伴う埋蔵文化財確認調査報告書						
卷次							
シリーズ名	指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書						
シリーズ番号	第29集						
編著者名	下山 覚・中摩浩太郎・渡部徹也・鎌田洋昭						
編集機関	指宿市教育委員会						
所在地	〒891-0402 鹿児島県指宿市十町2424 TEL (0993)22-2111						
発行年月日	西暦1998年9月30日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コ ー ド	北緯	東經	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
かみひごしいせき 上吹越遺跡	鹿児島県 いのさき し にしあたかみ ひご 指宿市西方上吹越	46210					農道整備 事業
しもひごしいせき 下吹越遺跡	にしあたしま にご 西方下吹越	46210					農道整備 事業
所収遺跡名	種 別	主な時代	主 な 遺 構	主 な 遺 物	特 記 事 項		

上吹越遺跡  
下吹越遺跡

平成10年9月

発行 鹿児島県指宿市教育委員会  
指宿市十町2424

印刷所 ☎ 0993-22-2111  
中央印刷株式会社  
鹿児島市春日町12番16号  
☎ 099-247-3300



